

日本環境教育学会 The Japanese Society of Environmental Education

発行/日本環境教育学会(理事会) <http://www.jsoee.jp> 編集/広報委員会(理事会内)

事務局/〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本環境教育学会事務局

電話 03-5307-1175 ファクス 03-5307-1196 E-mail: jsee@univcoop.or.jp

『環境学習シンポジウム』— 素のままの美しい暮らしを求めて

木俣 美樹男

『環境学習シンポジウム』は東京学芸大学の環境科カリキュラム研究会および三菱UFJ環境財団寄附講義「多彩なアプローチによる環境学習Ⅰ」の3年間のまとめとして、2012年2月18日に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催された。全国の教育機関、研究機関、官公庁、NPO 他から約200名の参加者があり、「環境科カリキュラムの必要性を探る」と「環境教育学への新たな提案」に関する12の話題提供のほかに、27のポスター発表があった。

日本の教育制度は本当に子どもたちの成長を願い、育んできたのだろうか。いつまでも人を差別選別する「受験教育」に依存して、個々人の素質個性を育むための本質的な教育環境に関する教育論議を避けているのではなかろうか、「教育改革」という大仰な掛け声はむしろ絵空事のように思われる。このシンポジウムでは、「環境学習」とは何かについて根底的に考え、本質を探り、「環境教育」を契機として日本の教育を良く変えることができるのか、その可能性を探りたかった。

このくには年ごとに来襲する台風、洪水、大雨・雪、10年・100年ほどの間隔で起こる早魃、やませ、突然起こるかのような大地震、津波などの自然災害が多大な被害をもたらして続けた。しかし、他方でこのくには自然環境は豊かな降水、森林や生物多様性をもたらしてもきたので、先祖たちは自然災害があることを前提に、それぞれの暮らしの場で日々の生業を営んできた。現代の都

市民はこの自然環境の中で蓄積されてきた歴史的な、地域固有の伝統的な知識を失おうとしているが、ピークオイルが過ぎ、未来に向けた長いランジッションのために、これらの知識はなくてはならないものである。今のこの時間に、博識な長老から学ばないままではよいのであろうか。

東北地方太平洋沖地震に伴う東京電力福島第一原子力発電所の崩壊は今までになかった人為災害、遺伝的変異を引き起こす放射性物質による公害に進展している。水俣病の深刻化と同じような経過をたどらないようにしてほしいが、権限に伴う責任がある行政府、直接の管理責任のある特定企業、関係科学者の沈黙や事実非公表や虚偽などを知るにつけ、私たちは公害の現代史から学んできたとは思えない。広島・長崎への原子爆弾投下、第5福竜丸の水素爆弾被災、そして今回の福島原子力発電所の崩壊、このくにはどうして世界の国々に先んじて放射性物質による甚大な人為災害に会ってきたのだろうか。科学技術に対する安全神話を狂信しているのではないのか。地道に観察、実験、調査した結果事実を基に考察するのが科学であり、事実隠匿や偽証により批判的精神や良心を失えば、科学は「悪しき宗教」になってしまう。日本の科学の現状を誠実に再考すべきではないか。自然や社会の持続可能性を高めるために、すべてを統合する学問としての環境教育学が求められている。

(きまた みきお/東京学芸大学環境教育研究センター)